

第9回藤枝精誠館支部空手道大会 2月26日 於 静岡県武道館



「指導して下さった全ての方々へ感謝の気持ちを胸に、全力で戦う事を誓います！」実桜・玲菜姉妹の力強い選手宣誓で、第9回藤枝精誠館支部空手道大会が始まりました。今年は、浜松律誠館支部との交流大会で、計135名の参加でした。恒例のビンゴゲームや、お菓子のたくさん詰まった金の大袋の大抽選会も、いつ

もより盛り上がりました。型では、長年練習した得意型で挑む人、新しい型にチャレンジする人、小学生ながら雲手・岩鶴など難しい型に挑戦する人も大勢いて、とても素晴らしかったです。私は支部大会には特別な思い出があります。小3の終わり頃、空手に入門して初めて出場したのが支部大会だったからです。当時「序の型」しか知らなかった私は、黒帯の中に混じり、ドキドキしながら出場した事を今でもはっきり覚えています。あれから4年、今回は調整だけで精一杯でした。昨年秋、鎖骨を骨折し、3ヶ月間練習も大会も出られずにいたからです。この時ほど悔しい思いをした事はありませんでしたが、私は本当に空手が好きなんだという事に改めて気がつきました。私にとって空手は無くしてはならない大切な物です。練習は厳しくて辛いけど、やったらやった分だけ勝利への道が開きます。熱心に指導して下さる先生方や、支えてくれる父や母のお陰で空手が出来る事に感謝し、これからも高い目標に向かってコツコツ努力していこうと思っています。最後に、お忙しい中、ご挨拶や審判に来て下さいました先生方、大会を準備して下さいました役員の方々、本当にありがとうございました。(レポート：藤枝精誠館中学1年 三森まゆ)

第10回将陽館・鷹生館・拓空館交流空手道大会



穏やかな春の日差しの中、3月20日(日)に第10回将陽館・鷹生館・拓空館の定期交流試合が、焼津将陽館本部道場にて行われました。私が選手だった頃、師範(鷹生館の大井先生)に「どんな小さな大会でも必ず出場し沢山試合経験を積むことが技術向上の早道」とよく言われたことを思い出します。道場生に少しでも経験をと

い交流試合を行い、本年度10回となりました。今回は120名の参加者で焼津将陽館本部道場の床が心配でした。本大会は3支部が持ち回りで開催し、試合運営・プログラム作成等は支部長以外の指導員が全て行う事が恒例です。10回ともなると各指導員は手際よく進行が進み、大会は大成功でした。初めて試合を経験した人も多く、「この子はこんなにスピードがあったんだ」「こんなに大きな気合いが出せる子なんだ」など、緊張した顔は普段道場で見たことがない姿でした。各指導員が県の講習会に積極的に参加して技の統一を心掛けているつもりですが、演武する型は少しずつ違いがある。改めて私たち指導員が勉強させられました。年に2回の開催でも良いのではと道場生からの意見もありました。こんな練習試合を増やして行こうと思います。また、本月11日に東北から北関東を中心に広い範囲で被害をもたらした「**東北地方太平洋沖地震**」で被害を受けた被災者様や、救助・捜索活動や復興に向けて懸命の活動を続ける皆さんへの義援金(総額41,035円)を、先生方をはじめ、参加選手や大会スタッフ、ご父兄の皆様よりお預かりする事ができました。(3月23日静岡新聞朝刊に掲載)心よりお礼申し上げます。(レポート：将陽館 菊地伸幸)

第7回やまびこ杯争奪空手道大会



まだまだ寒い日が続く早春の川根路、川根本町山村開発センターにて、3月20日(日)川根支部主催の「第7回やまびこ杯争奪空手道大会」が盛大に開催されました。回を重ねるごとに参加道場も増えて、今年は川根支部3道場に加え、安倍川支部と掛川の虎琉館、御前崎の桜道場、磐田松涛館と県連で活躍中の友好道場の

合計7道場が参加し、幼年から大人まで約100名が熱戦を繰り広げました。やまびこ杯と銘打ったこの大会は、選手の気迫や仲間の応援が周りの山々にこだまし、過疎化が進む町全体が元気になるのを願って始まったのがきっかけです。今回は**東北地方太平洋沖地震**後の大会ということもあって、「心はひとつ!がんばろう日本!今、私たちにできること!」をスローガンに被害に遭われた地域へ元気の波動が届くようお願いしながら白熱した試合が展開されました。また、地元を離れ他の地域に通学する高校生も応援にかけつけ模範演武を披露していただき大会を盛り上げてくれました。午前は型の試合を行いました。ルールは自由型とし、同じ型を何回打ってもよしという事で、一つの型で決勝まで行く選手もいれば、型をその都度変える選手もありました。午後は組手(自由組手)を行いました。どの層でも道場の威信をかけ白熱した戦いが繰り広げられました。また、他流派の選手も技術が高く、川根支部・安倍川支部の生徒も大変勉強になったと思います。そして、やまびこ杯と言えば、応援です。道場がチームとして戦うのですが、素晴らしい応援をしたチームには「応援ポイント」が与えられます。この応援ポイントはそれによって、優勝が決まってしまうくらいに重要なポイントです。どの道場も必死にそして、個性あふれる応援をしていました。私は審判として参加しましたが、他流派の選手も見ることができ、大変勉強になりました。また、各道場一生懸命応援する姿を見て微笑ましいものを感じました。そして、選手の皆様には、是非本年の大会で活躍していただきたいと願っています。大会結果は総合力に勝る颯志館桜道場が総合優勝を勝ち取りました。今回の震災で被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご遺族の皆様に対し、深くお悔やみを申し上げます。大会中に**東日本大震災**の被災者様にむけて義援金77,020円が集まりました。寄付をして頂いた皆様方本当にありがとうございました。少しでも被災者様の助けになればと思います。皆が心をついにし取り組んでいけば、再び元通りに築きあげる事が出来るでしょう。今大会は、全員が人を思う心の大切さを感じる良い大会となりました。(レポート:川根支部 鈴木雄一郎)

第10回松永杯水上杯争奪戦静岡市空手道大会



穏やかな春の日差しに誘われ、桜のつぼみも膨らみはじめた3月27日(日)に静岡市北部体育館にて「第10回松永杯水上杯争奪戦静岡市空手道大会」が開催されました。今回で10回目を数える本大会は、静岡市内で活躍

中の松涛連盟各支部と、複数の友好団体にて、型・組手の個人戦に加え、入賞ポイントの合計による道場対抗戦にて行なわれ、組手の道場優勝に「松永杯」型の道場優勝に「水上杯」が授与されます。今回は、幼年から一般まで、型・組手に延べ450名が参加し、大会を盛り上げました。型・組手共に各コートにて息詰まる熱戦が展開され、激戦を制したのは、型の部・組手の部共に清水支部烈士館が栄冠を手に入れました。総合優勝も、昨年に引き続き清水支部烈士館となりましたが、しかし参加各道場との差は年々確実に縮まっています。次回の開催が早くも期待されます。また、本月11日に、世界史上最悪・最大規模の「**東北地方太平洋沖地震**」により深刻な被害を受けた、東北・関東地方の被災者様や、救助・捜索活動等、連日の徹夜による、懸命の復興支援にあたる方々に、金10万円の緊急災害義援金を、本大会主催本部より寄付させていただきました。地震発生から約3週間(3月31日現在)、被災地では今だ余震が続き、現地原子力発電所事故による放射線問題、また、それに伴う飲料水や農作物問題等、予断の許さぬ厳しい状況が今なお続いております。是非一刻も早い復興をと、心より願っております。(レポート:広報部 秋山高士)